

74515057 川崎市では、市内に設置するネットワーク、市内でも増えつつある自転車置き場

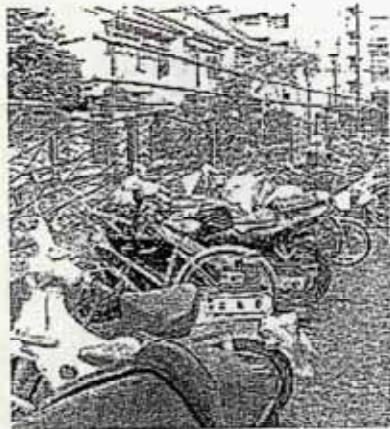
川崎区報 トップ記事

2007年5月25日号

タウンレポート

マナー向上へ 市の啓発強化も課題

放置自転車撤去台数減るも、現実の放置台数依然変わらず？



列をなす放置自転車とバイク

川崎市では放置自転車対策が以前より大きな課題となっているが、市全体における平成18年度の放置自転車撤去台数は約78000台で、平成17年度の約83000台から大幅減となった。これに対して市では「駐輪場を増設してきた効果では」と述べている。確かに市内では区役所主導による駐輪場設置が進んでおり、これらは撤去台数減少の一因になっていると言える。しかしこの数字がそのまま放置自転車減少を示す根拠になる訳ではない。むしろ目に見えない部分に、この問題の根深さがある。

市では条例に基づき、駅周辺などを中心に放置自転車禁止指定区域を設定、違反車両の撤去を行っている。しかし各区役所によると、指定区域外での放置が近年増加しており、そのため撤去自体が行えない状況が多発しているという。つまり放置自転車そのものの数が大幅に減少したとはいえない。市によると、禁止指定区域以外における放置自転車の実態は正確に把握しておらず、地域住民からは「私有地内に駐輪する外部の人間が増えている。利用者を特定することも出来ず、大変迷惑」という声が上がっている。この場合、買い物客等の一時駐輪に比べ、通勤・通学者による長時間の駐輪が多いようだ。

現実問題として、行政が全放置自転車の状況を把握し、駐輪場収容や撤去・移動を行うのはほぼ不可能。民間の私有地についても積極的な関与は出来ない。商業施設や鉄道会社にしても対応は遅れており、ハード面での対策は現状に追いついていない。重要なのはもちろん、利用者のマナー向上なのだが、それを市民が十分に意識しているとはいえない状況だ。そこで例えば、広報車等での地域の見回りを通じた啓蒙活動や媒体を用いての呼びかけといったソフト面での対応の強化こそ、行政に今望まれる動きではないか。

最近6年間の市の人口推移は毎年1万人以上の増加を見せており、自転車利用者もますますの増加が予想される。放置自転車についても、その形態は従来の駅周辺集中から近隣地域へのドーナツ型分散に変わりつつある。今こそ市民一人ひとりの意識改善が何より必要であり、行政が目を向けるべきはまさにこの点。そのための活動が急務だ。

川崎市

武蔵小杉駅周辺の自転車対策

駐輪場2800台分整備

川崎市は、大規模マンション建設が続く武蔵小杉駅周辺の自転車対策を本格化させる。民間事業者と合わせて計二千八百台分の駐輪場を整備するほか、市民も通行できるマンション敷地内の公開空地も、管理者の要望を受けて放置禁止区域指定を行う方針。

(青木 晋)

開会中の市議会第三回(六月)定例会で、民主党の立野千秋氏(中原区)の質問に、大川昌俊建設局長が答弁した。	口駅前広場の地下に約千台分(二〇一〇年度完成予定)、小杉第一公園に半地下で約四百台分(二年度完成予定)を建設する。また、横須賀線新駅前に設置される交通広場には、〇九年度末の同	分を整備する。東急線高架下の駐輪場も、東急が現在の八百台分を千二百台分に増強するという。また、マンションなどの整備が進み、放置自転車禁止区域を指定する際には、マンション敷地内でも歩道のような整備が
--	---	--

され、不特定多数が自由に通行できる民有地も、管理者などの要望を受けて禁止区域に指定する。すでに事業者から要望も出ているという。

同業によると、同駅周辺の自転車利用は約六千台。〇六年六月現在で約四千四百台が既設の駐輪場を利用しているが、残る約千六百台が放置自転車として路上などに止められている。

## 市民発

自転車と共生する  
まちづくり委員会

点字ブロックの上に自転車を止める若者に「こっちの駐輪場が空いていますよ」と声を掛ける。「自転車と共生するまちづくり委員会」が武蔵小杉駅周辺で月2回行う「呼び掛け運動」＝写真＝だ。メンバー20人が駐輪場の案内看板を駅やスーパーに取り付け、チラシを配る。「自転車が好き、ルールを守るあなたが好き」がスローガンだ。

中原区は平坦な道が多く自転車が走りやすい。しかし自転車で道路がふさがれ、消防車や救急車が入れない事態も起きた。放置自転車防止活動への協力の声が町内会、商店街、スーパー、企業と次々上がった。

## 地域をつくる人・活動

かわさき市民活動センター 室044(542)1701

街に広がる  
声掛けの輪

制服姿で駆けつける店員、背広を着た会社員らが黄色の帽子に黄緑色のベストを着けて街頭に立つ。粘り強い呼び掛けに放置自転車は減っていった。地域ぐるみの活動は注目され近隣へと広がっている。

「6年前の活動当初は、増え続ける自転車に途方に暮れた」と話す委員長の方賀誠さん。今は地元の仲間たちと「駐輪場をもっと増やしたい」と策を練っている。  
(市民記者 高木 春子)